

第2章 地域の概要

第1節 社会環境

1. 人口動態

養父市及び朝来市（以下、「南但地域」といいます。）における人口は、この10年間に11.0%（7,281人）減少しています。

一方、世帯数は、この10年間に0.2%（52世帯）増加しており、一世帯当り人口は3.01人から2.67人へと減少しています。

南但地域における人口及び世帯数の推移は次のとおりです。

表 2-1-1 人口及び世帯数の推移

項目 年度	南但地域			養父市			朝来市		
	人口 (人)	世帯数 (世帯)	世帯当たり 人口(人/世帯)	人口 (人)	世帯数 (世帯)	世帯当たり 人口(人/世帯)	人口 (人)	世帯数 (世帯)	世帯当たり 人口(人/世帯)
平成16年度	66,192	21,993	3.01	29,836	9,827	3.04	36,356	12,166	2.99
平成17年度	65,552	22,161	2.96	29,509	9,874	2.99	36,043	12,287	2.93
平成18年度	64,877	22,356	2.90	29,122	9,910	2.94	35,755	12,446	2.87
平成19年度	64,141	22,430	2.86	28,691	9,907	2.90	35,450	12,523	2.83
平成20年度	63,203	22,383	2.82	28,282	9,885	2.86	34,921	12,498	2.79
平成21年度	62,325	22,345	2.79	27,846	9,874	2.82	34,479	12,471	2.76
平成22年度	61,583	22,298	2.76	27,550	9,878	2.79	34,033	12,420	2.74
平成23年度	60,812	22,218	2.74	27,102	9,800	2.77	33,710	12,418	2.71
平成24年度	59,917	22,098	2.71	26,580	9,745	2.73	33,337	12,353	2.70
平成25年度	58,911	22,045	2.67	26,069	9,706	2.69	32,842	12,339	2.66

備考) 各年10月1日の人口

出典) 住民基本台帳

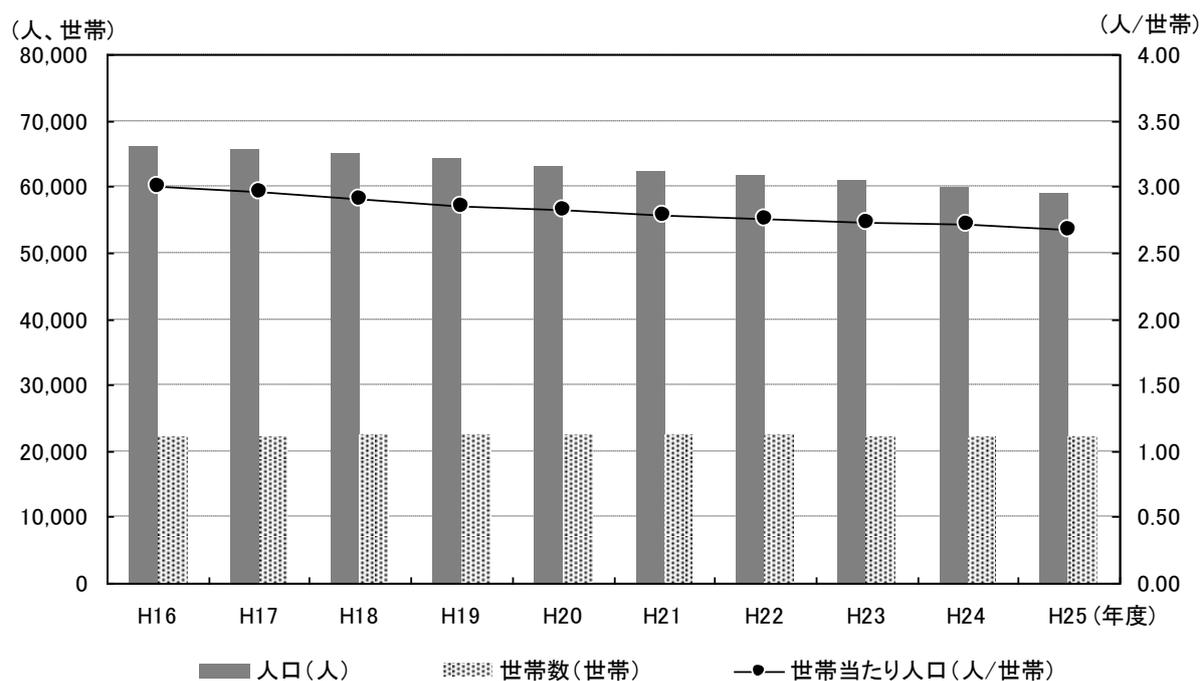


図 2-1-1 人口及び世帯数の推移

2. 産業構造

南但地域の就業人口総数は、養父市では平成2年以降、朝来市では平成7年以降に減少傾向となっています。

南但地域における産業別の就業人口を見ると、農業や漁業といった第1次産業、製造業等の第2次産業は減少傾向を辿る一方で、サービス業等の第3次産業は横ばい傾向を辿っています。

南但地域における産業別就業人口の推移は次のとおりです。

表 2-1-2 産業別就業人口の推移

項目	年	H2	H7	H12	H17	H22	構成比
							(%)
養父市	第一次産業 (人)	2,136	1,848	1,397	1,266	965	8.3
	第二次産業 (人)	5,978	5,690	4,873	4,231	3,302	28.4
	第三次産業 (人)	7,751	8,077	8,108	7,899	7,380	63.4
	小計 (人)	15,865	15,615	14,378	13,396	11,647	100.0
朝来市	第一次産業 (人)	1,796	1,985	1,264	1,323	1,015	6.8
	第二次産業 (人)	7,459	7,610	6,429	5,501	4,548	30.6
	第三次産業 (人)	8,647	9,199	9,855	9,888	9,317	62.6
	小計 (人)	17,902	18,794	17,548	16,712	14,880	100.0
南但地域	第一次産業 (人)	3,932	3,833	2,661	2,589	1,980	7.5
	第二次産業 (人)	13,437	13,300	11,302	9,732	7,850	29.6
	第三次産業 (人)	16,398	17,276	17,963	17,787	16,697	62.9
	小計 (人)	33,767	34,409	31,926	30,108	26,527	100.0

出典) 総務省統計局ホームページ (国勢調査)

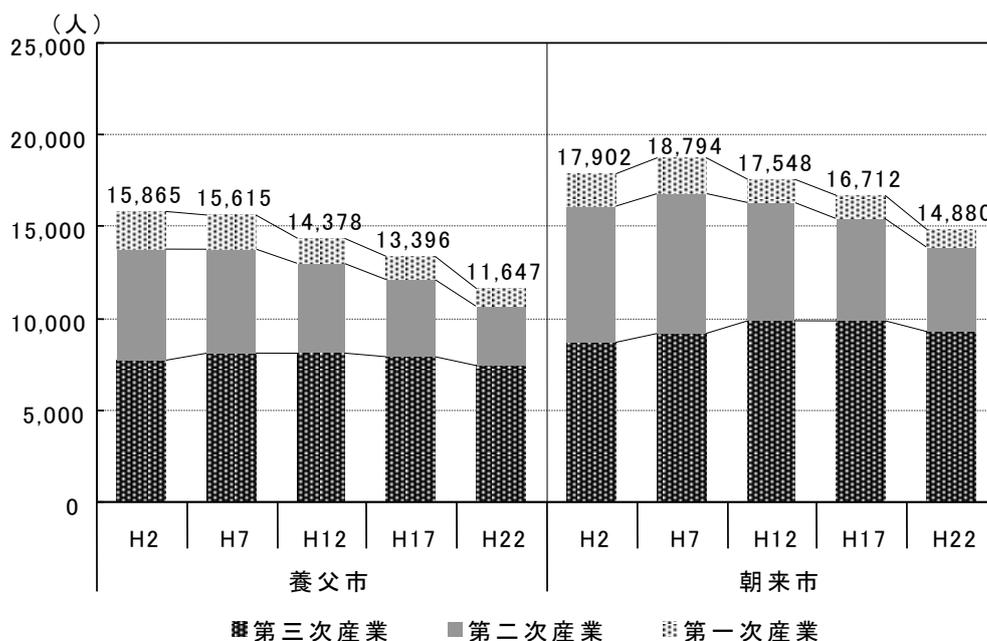


図 2-1-2 産業別就業人口の推移 (養父市、朝来市)

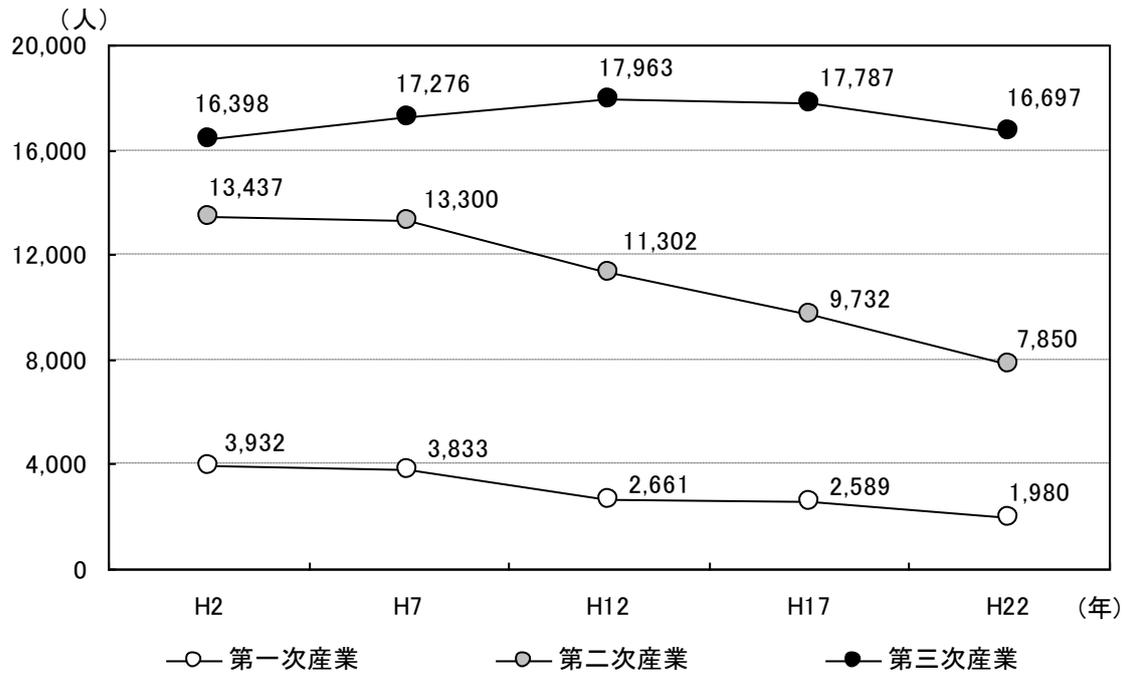


図 2-1-3 産業別就業人口の推移（南但地域）

第2節 自然環境

1. 位置・地勢

養父市、朝来市は兵庫県の北部に位置し、但馬・山陰地方と京阪神大都市圏を結ぶ交通の要衝の地にあります。

東部を円山川が南から北に流れ、その支流の八木川、大屋川、与布土川などが流下し、それらの河川に沿って小規模な平地が開けています。また、地域の南部は瀬戸内海へ流れる市川の源流地域となっています。

養父市、朝来市の位置は次のとおりです。

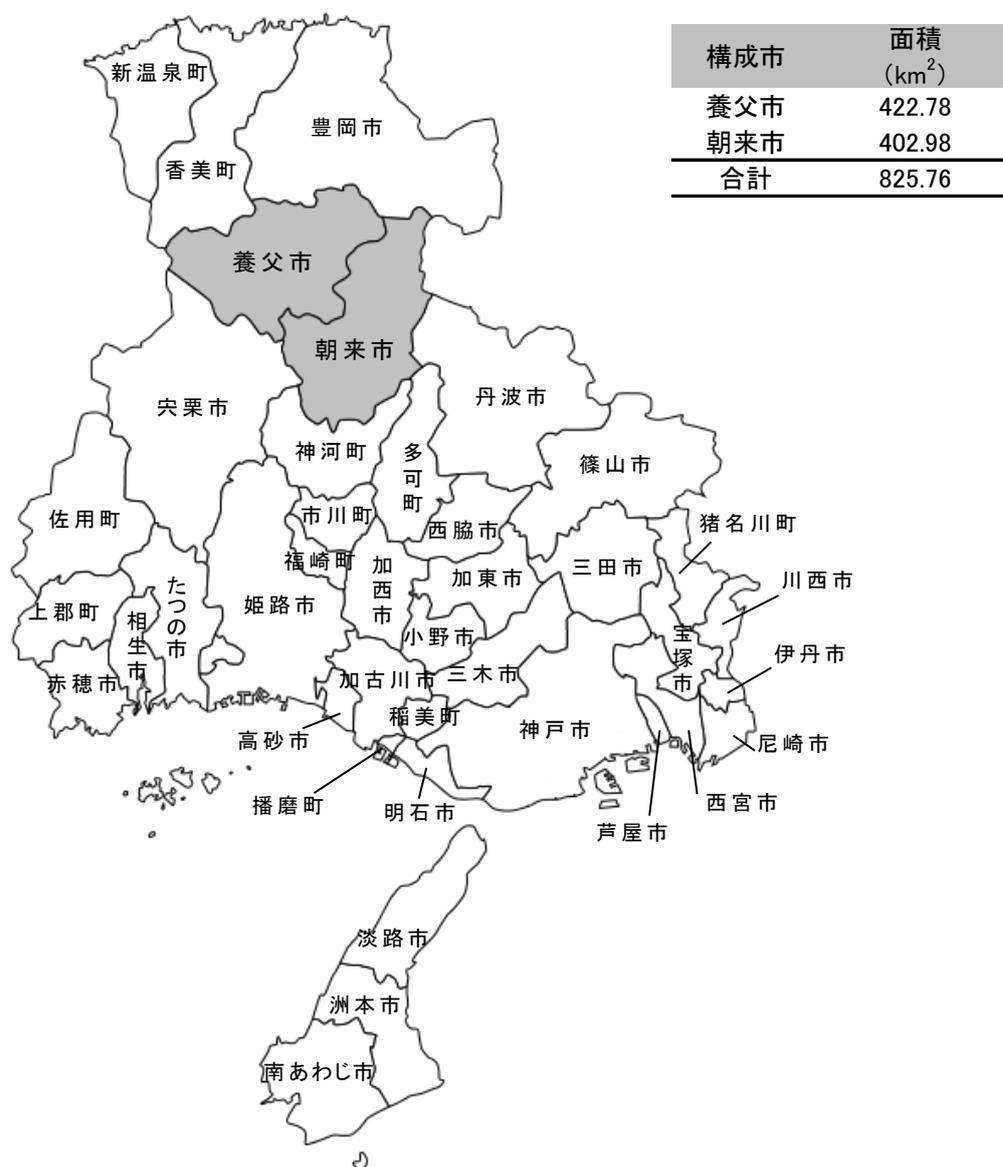


図 2-2-1 養父市、朝来市の位置図

2. 気象

南但地域は日本海型気候に属し、一般的に多雨多湿で梅雨・秋雨期には降雨が多く、冬季は大陸からの季節風によって積雪も多い地域です。年間の平均気温は概ね摂氏 13.6～15.0℃、総降水量は 1,252～2,366.5mm です。

なお、平成 23 年の総降水量は、台風第 12 号及び第 15 号の影響による大雨が主因となっています。

過去 10 年間における南但地域の気象及び平成 25 年の月別平均気温、月別降水量及び日照時間は次のとおりです。

表 2-2-1 過去 10 年間の気象

項目	年	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)
平均気温*1	℃	15.0	14.1	14.2	14.6	13.9	13.9	14.3	13.8	13.6	14.0
最高気温*2	℃	20.7	19.5	19.3	20.0	19.6	19.4	19.9	19.3	18.9	19.8
最低気温*3	℃	10.4	9.6	10.1	10.1	9.6	9.4	9.9	9.5	9.4	9.4
最高の極値*4	℃	36.3	35.7	36.4	36.1	36.3	35.3	36.7	36.5	36.8	36.8
最低の極値*5	℃	-5.6	-8.6	-8.9	-4.3	-7.0	-7.8	-4.0	-8.5	-10.0	-6.0
総降水量	mm	2,120.0	1,287.0	1,868.0	1,252.0	1,410.0	1,876.0	1,675.0	2,366.5	1,701.5	1,849.0
日最大降水量	mm	225.0	54.0	102.0	59.0	58.5	151.5	76.5	219.5	140.0	129.0
日照時間	時間	1,633.7	1,464.1	1,330.5	1,451.6	1,543.4	1,392.1	1,597.1	1,493.9	1,451.6	1,652.8

*1 年間の平均値

出典) 和田山地域気象観測所 観測データ

*2 年間の最高気温の平均値

*3 年間の最低気温の平均値

*4 年間の最高気温

*5 年間の最低気温

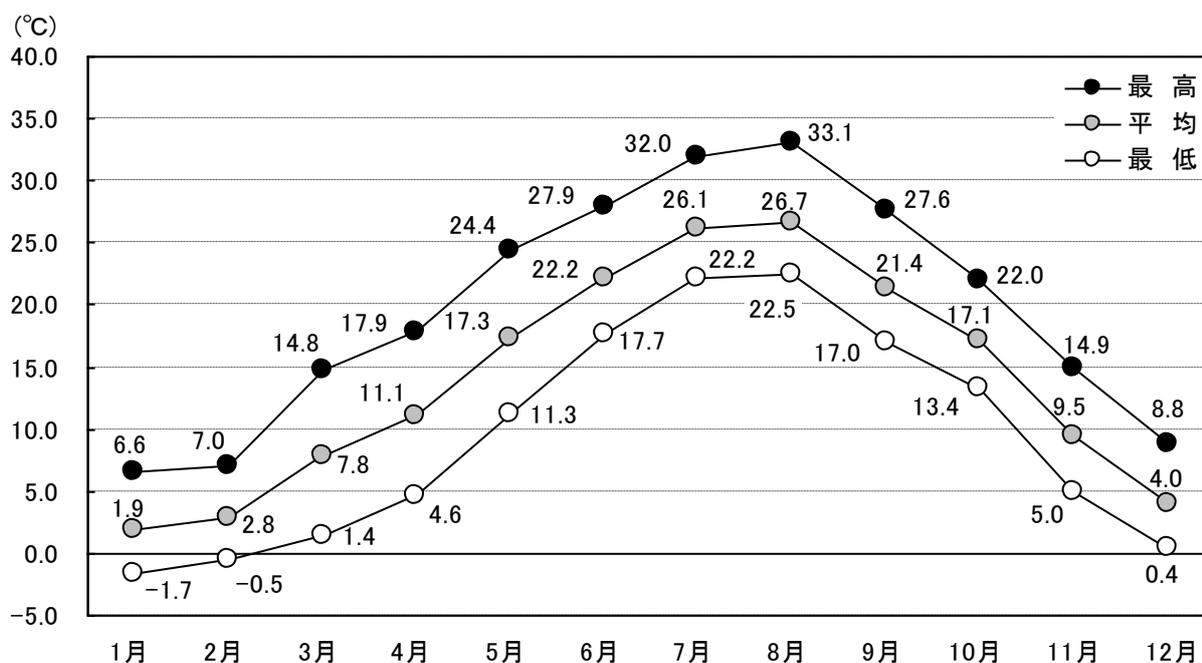


図 2-2-2 月別平均気温 (平成 25 年)

第2章 地域の概要

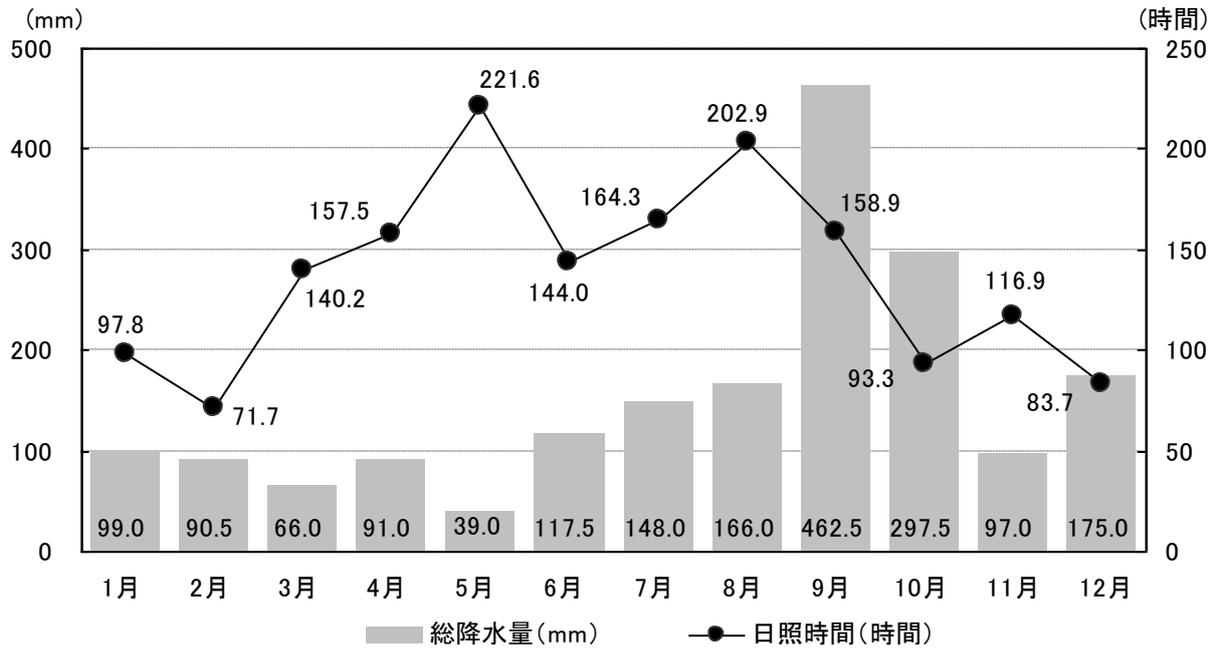


図 2-2-3 月別降水量及び日照時間（平成 25 年）

第3節 土地利用状況

南但地域は約 75%を山林が占めており、宅地が占める割合は約 5%となっています。

南但地域における地目別土地面積の割合は次のとおりです。

表 2-3-1 地目別土地面積の割合

市名		項目	総面積	計 (評価総地積)	田	畑	宅地	山林	牧場・原野	雑種地
養父市	km ²		422.78	122.34	14.18	7.75	5.27	91.83	1.50	1.81
朝来市	km ²		402.98	132.84	17.48	3.73	7.75	99.37	1.20	3.31
合計	km ²		825.76	255.18 (100.0%)	31.66 (12.4%)	11.48 (4.5%)	13.01 (5.1%)	191.20 (74.9%)	2.70 (1.1%)	5.12 (2.0%)

備考) 非課税とされている地域の面積は含まれていません。

出典) 兵庫県市区町別主要統計指標 平成 26 年版

第4節 開発・将来計画

1. 養父市

平成23年6月に策定された「第2次養父市総合計画」では、「養父市まちづくり基本条例」のもと、過疎化や少子超高齢化による集落機能の低下、地域コミュニティの衰退という課題解決に向けて、以下の将来像、基本理念を掲げています。

この将来像を実現させるために、養父市に関わる全ての人々（市内に居住する人・市内で働く人・市内事業所等）が“市民”としてまちづくりに参画し、住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを進めることとしています。

将来像： 響きあう心 世界へ拓く 結の郷 やぶ

～学びと交流と居住のまち～

- 基本理念
1. 「生きる力」を生涯学ぶまち
 2. 人と自然と文化を活かし、多くの人を訪れるまち
 3. 赤ちゃんからお年寄りまで、安心して暮らせるまち
 4. 意欲をもって働き、未来を拓くまち
 5. 互いに協力し、支え合うまち

2. 朝来市

平成25年9月に策定された「第2次朝来市総合計画」では、全国的に加速する少子高齢化、地域経済の低迷、東日本大震災以降の世相の変化といった社会情勢の変化に加え、市政運営の根幹となる人口維持に向けて、以下の将来像、基本理念を掲げています。

朝来市では、人口政策による地域力の向上に向けて、いきいきとした市民の暮らしの場を創造し、市民がともに絆でつながり合い、自律した生活意識の高い市民の割合の増加をめざしていくこととしています。

将来像： あなたが好きなまち・朝来市

- 基本理念
1. 創造
常に未来を見つめ、次世代社会を創造する力を高めます。
 2. 絆力
地域の源泉である家族の絆、地域の絆の力を高め、協働でつなぐ地域力の向上を目指します。
 3. 自律
市民、地域、自治体の自律する力を高め、市民自治の自覚と構築を目指します。